

(かしょう)あつぎ
なかえちいせき

(仮)厚木 中依知遺跡

▲最新情報▲

所在地 厚木市中依知

時代 縄文時代
古墳時代
奈良・平安時代
中世
近世



中依知遺跡（仮称）の発掘調査は、さがみ縦貫道路（国道468号線）・厚木秦野道路（国道246号線）の建設に伴うもので、平成13年6月より行っています。平成14年度は約15,000㎡の調査を行いました。

調査区には、桜樹古墳群（さくらぎこふんぐん）と呼ばれる古墳時代後期の古墳群に属する古墳が5基存在します。平成14年度には、前年から調査を行っている第1～第3号墳と新たに第4・5号墳の調査を行いました。

調査を行った古墳はいずれも径16～22mほどの円墳で古墳の中心に横穴式石室と呼ばれる埋葬（まいそう）施設を持っています。第1～3号墳の石室からは、鉄刀や鉄鏃（てつぞく）などの武器類、ガラス玉・管玉（くだたま）・切子玉（きりこだま）・勾玉（まがたま）や金銅製の耳環（じかん）などの装身具、そして



▲第1号墳(左)、第2号墳(右) 全景



人骨片が発見されました。また、第3号墳からは、馬具（ばぐ（馬に装着する装備））の一部である飾金具（かざりかなぐ）や鉸具（かこ（ベルトの留め金））も出土しています。第1号墳の周溝（しゅうこう）からは、珍しい把手（とって）付の土師器（はじき）の壺が発見されています。平成14年度より調査を開始した第4号墳からは、鉄刀・鉄鏃・人骨などが発見されました。

古墳群の中心にはさがみ縦貫道路開通後、廃道となる市道569号線が通っており、いずれの古墳もこの市道の下に続いているため、平成15年度は市道部分一帯の調査を行う予定です。また、そのほかの平成15年度調査区部分では、新たに1基の古墳（第7号墳）の石室と周溝の一部及び2基の古墳（第6・8号墳）の周溝の一部が発見されています。

国道129号線に近い傾斜面では、横穴墓と呼ばれる崖面を掘って造られる、古墳の横穴式石室に類似した施設が4基発見されました。第1号横穴墓は現在の市道204号線下に続いておりますが、開口部と開口の前面の前庭部（ぜんていぶ）と呼ばれる部分の調査を行いました。第2～4号墓は今後調査を行う予定です。

平成14年度の調査ではその他に平安時代の竪穴住居址が6軒発見されています。いずれも9～10世紀に造られたと考えられるもので、土師器や須恵器（すえき）、灰釉陶器（かいゆうとうき）などが発見されています。この他に縄文

▲第1号墳完掘状況



▲第4号墳石室遺物出土状況



▲第5号墳石室

時代の狩猟（しゅりょう）用に掘られた陥穴（おとしあな）や近世のお墓の一部も発見されています。

平成15年度の調査は、現在のところ11月半ばまで行う予定です。